

平成26年度東京都教育委員会社会教育指導者研修「学校教育支援施策研修」(第1・2回)

第1・2回 教育支援コーディネーター・ミーティング(報告)

小学校における「外国語活動」への 効果的な支援の可能性

学校支援活動のなかでも「学習支援」においては、学校と地域・(外部)資源との橋渡し役として、コーディネーターは期待されています。「小学校外国語活動」は、今年度で3年目を迎えています。地域人材との連携や企業・大学等との連携など、外部資源と連携の可能性について、2回にわたって考える機会としました。

【対象】 (定員: 40名)

- ◆区市町村教育委員会学校支援ボランティア推進協議会事業担当者
- ◆東京都及び区市町村教育委員会職員(生涯学習・社会教育所管課及び指導室等)等
- ◆教育支援コーディネーター
(学校支援コーディネーター、地域コーディネーター等「学校支援ボランティア推進協議会事業」におけるコーディネーター)
- ◆(第2回のみ)「外国語活動」に関心のある企業等の担当者も参加可

■第1回 地域での連携

地域人材の協力による「外国語活動」への支援とコーディネーター

「小学校外国語活動」は、学校や地域の実態等に応じて、様々な指導体制が工夫されています。そのひとつである地域人材の活用を視野に入れて、早くから「小学校英語活動サポーター」事業にも取り組んできた杉並区から(「すぎなみ9年カリキュラム[外国語教育編]」)の事例報告を踏まえ、地域人材を活用した「外国語活動」への、地域の実態に合わせた効果的な支援の可能性について考えました。

◇日時 平成26年10月22日(水)午後2時から午後4時半まで

◇会場 杉並区立産業商工会館 講堂

◇参加者

文京区(1)、品川区(1)、大田区(4)、世田谷区(1)、杉並区(8)、多摩市(1)、稲城市(4)
計20人

◇プログラム

・事例報告

杉並区における「小学校外国語活動」の取組

報告者: 杉並区立済美教育センター 指導主事 新井晶子さん

小学校英語活動サポーター事業」として平成14年度から今日までの取組について、ボランティア養成、登録、学校の要望に応じた導入について解説していただきました。

あわせて現在小学校外国語活動授業において、教員とサポーターとが連携して授業を進めている事例や、登録後のサポーター対象研修や外国語活動担当対象の研修の仕組みを御紹介いただきました。



・グループワーク「学校と地域の実態に応じた効果的な支援」



・まとめ



参加者の感想から

「他地域のかたとのグループワークは参考になった。仕組みやこれから何をしたらよいかのヒントをいただいた。」
「外国語がこれからの社会に果たす役割の大きさを感じました。」

■第2回「企業・大学」との連携

企業・大学と考える「外国語活動」の可能性

小学校における「外国語活動」においては「体験的なコミュニケーション活動」への配慮が求められています。グローバル化する社会において、実際に経済の国際化を担っている企業等との連携も、「体験的なコミュニケーション活動」を具体化するための選択肢の一つといえます。大学との連携による「外国語活動」への支援事例報告を踏まえ、「学習支援」における、外部団体との連携の可能性について考えました。

◇日時 日時 平成26年11月13日(木) 午後2時から午後4時半まで

◇会場 中野サンプラザ 15階フォレストルーム

◇参加者

品川区(1)、大田区(1)、世田谷区(1)、杉並区(5)、板橋区(4)、調布市(3)、その他(2)

計17人

◇プログラム

・第1回報告

・事例報告 大学(留学生)と連携した外国語活動への支援事例

報告者: 文京区立駒本小学校地域コーディネーター 水木優香さん



文京区と板橋区、それぞれの小学校でコーディネーターを担当している立場として、それぞれの学校からのオーダーにあわせて、外国語活動の支援を行った事例の報告でした。

支援の連携先は、早稲田大学国際教養学部です。どのように大学の、またボランティアを希望している留学生の協力を得ているのか、学校の意向をどのように伝えているのか、その具体的なコンタクトの方法など、コーディネーターとして役割を報告いただきました。

・グループワーク「外部団体・人材と連携した外国語活動支援」



・まとめ

参加者の感想から

「事例発表は、とても具体的で参考になりました。実際の動きが手に収まるようにわかりました。」

「授業支援のワークが、いろいろなイメージできて、とてもよかったです。」

「英語教育の現状と、今後の展望についての勉強会もやってほしいです。」

以上の2回を通じて小学校における外国語学習の、身近な地域人材との連携、または近隣に限らず広く大学や企業等と連携した取組の可能性をあらためて考えるなかで、以下のような、今日的な課題や方向性が浮き彫りになりました。

- ・児童の外国語学習への意欲を増すために、地域人材を視野に入れ、専門性とコミュニケーションを重視した環境を整えることが重要であり、可能性があること。
- ・オリンピック・パラリンピックに向けて、異文化や自国の文化の理解の促進、英語による情報発信力の向上が期待されていること。
- ・また、国では、中央教育審議会(高大接続特別部会)において、「英語等については、民間の資格・検定試験によって代替する」ことも検討されるなど、今後の外国語学習等に影響のある大学入試制度改革が始まること。
- ・コーディネーターが学校支援の担い手として、例えば「外国語活動」を取り上げたときも、様々な動向にも関心を持ちつつ、学校の求めに応じて「地域と学校を結ぶ」という原点を大切にすること。